

全国知事会デジタル社会推進本部
『生成 A I 利活用検討ワーキングチーム』
活動状況報告書

令和 6 (2024)年 7 月

CONTENTS

- 1 はじめに p 3
- 2 これまでの取組 p 4
- 3 取組による成果 p32
- 4 今後の普及・展開に向けた課題 p34
- 5 おわりに p37

1 はじめに

生成A I技術の進展等、A Iの急速な進歩や普及により、A Iの活用を通じた新しい価値の創出への期待が高まっており、こうした技術については、行政の様々な分野で活用が広がる可能性がある一方で、社会に及ぼすリスクへの懸念から、国においては、A Iの活用に向けた検討や取組を進めるとともに、生成A Iに関する国際的なルール作りを進めています。

こうしたことから、生成A Iの利活用に向けた各都道府県における取組を集約し、その効果的な活用事例や課題、安心・安全に利用するためのシステム整備やルールづくりなどの知見の共有を図り、行政分野における生成A Iの有効な活用方法について検討し、その成果を共有するとともに、国における活用や規制の検討に係る動きと連動した国への提言につなげるため、全国知事会デジタル社会推進本部に、「生成A I利活用検討ワーキングチーム」を設置しました。

本ワーキングチームでは、知見の共有を図るための会議やセミナー等を開催してきたところであり、取組による成果や今後の展開などについて整理したので報告します。

2 これまでの取組

1 ワーキングチーム設置

R5.9.5

- リーダー 山口県（デジタル社会推進本部本部長）
- サブリーダー 北海道（同 副本部長）
千葉県（同 幹事長）

○構成都道府県（44都道府県）

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

2 これまでの取組

2 生成AI利活用実態調査

R5.9.5～

調査に当たっては、全国都道府県情報管理主管課長会研究会と共同で
実態調査を実施

(同研究会令和5年度テーマ「生成AIの地方自治体における利活用について」)

◇調査項目

- (1) 生成AIの導入について
- (2) 生成AIの活用事例について
- (3) ガイドライン等の策定について
- (4) 国や事業者への要望・提言について

※ 最終調査結果：P16～31参照

2 これまでの取組

3 担当者研修会

R5.11.2

北海道（サブリーダー）主催のデジタル先進技術をテーマとしたフォーラムと連携した担当者研修会を開催

○北海道ミライづくりフォーラム
（主催：北海道、NTT東日本）
北海道大学大学院情報科学研究院
川村秀憲教授 講演

「人工知能のミライ ChatGPTを超えて」
オンライン配信(19都府県聴講)

※ R5.12.25～R6.3.31までアーカイブ配信



北海道
ミライづくりフォーラム
2023

入場無料
事前申込制

ほっかいどうのミライをつくるための技術と人を集結!

自治体や民間企業を取り組む数々の事例紹介やデジタル技術の展示、自治体DXやドローン、教育分野でのデジタル活用をテーマにしたセミナーやディスカッションなど、自治体DXのヒントがすべて詰まったイベントです。

開催日 2023.11.2 木
開場時間 10:00
観覧プログラム 10:30~17:15

場所 ロイトン札幌3F ロイトンホール
〒060-0001
北海道札幌市中央区北1条西11丁目1番地1

イベントサイト
<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sv/dfr/157203.html>

講師講演
川村 秀憲氏 北海道大学大学院情報科学研究院 教授
演習講師、フューション、インターハブAI戦略推進、Sapporo AI Lab 代表
2000年3月～ 北海道大学大学院工学部情報科学専攻 博士課程修了後、博士
2002年4月～ 北海道大学大学院情報科学専攻 准教授
2009年10月～ 北海道大学大学院情報科学専攻 准教授
2016年1月～ 北海道大学大学院情報科学専攻 教授

主催者挨拶
鈴木 直道 北海道知事
社会のあらゆる場面でデジタル化が進んでいます。住民の暮らしがデジタル化の恩恵をしっかりと享受できるように、私たちが率先してDXに取り組む、便利で快適な明日を共に創っていきましょう。

島津 泰 NTT東日本 執行役員 北海道事業部長
私たちNTT東日本グループは、地域のみならず、全国に夢や希望を届けられる地域社会を再構築します。新しいミライを、ICTの力で、あなたの街から共につくります。

自治体、教育関係機関、企業・団体さま、この機会に是非本フォーラムへご来場ください!

主催：北海道、NTT東日本 共催：北海道教育委員会
協力：北海道経済産業局、北海道総合通信局、株式会社HARP、一般社団法人北海道大学教員研究フォーラム

詳しくは裏面へ

2 これまでの取組

4 デジタル社会推進本部提言

R5.11.13

- 全国知事会デジタル社会推進本部による提言に当ワーキングの意見（各県調査結果等）を反映

「デジタル社会の実現に向けた提言」 4 急速なAIの進歩・普及を踏まえた対応

「生成AI」技術の進展等、AIの急速な進歩や普及を踏まえ、国においては、望ましい活用の在り方の検討、AI実装の推進に加えて、統一的な調達ガイドラインを作成するとされている。AIの利活用については、読み込ませるデータの取扱いや個人情報・機密情報の保護、生成されるデータの正確性、知的財産権の侵害などの課題があるが、こうした技術は行政の様々な分野で活用が広がる可能性があり、国において、AIの特性やリスク、住民自治に基づく意思決定をはじめとする民主主義・地方自治との整合性等を踏まえながら、規制と活用の両面から適切なルールを設定を早期に行うなど、AIへの対応に向けた検討を尽くすこと。

また、行政分野においては、地方自治体における利活用に係る共通の指針を示すとともに、国と地方全体での行政事務の効率化等を図ることを目的に、行政機関や行政サービスにおけるAIの活用事例の共有やAIを安全・安心に活用できる環境整備等を進め、利活用を促進すること。

2 これまでの取組

5 ワーキングチーム第1回会議

R5.11.16

○議題

- (1) 目的、活動内容等説明
- (2) 活用事例調査報告
 - ① アンケート結果報告
 - ② 事例発表（栃木県、香川県）
- (3) 国への提言報告
- (4) セミナーについて
- (5) 今後の活動について
- (6) 意見交換

アドバイザーとして、西日本電信電話(株) ビジネス営業本部 デジタルデータビジネス担当課長 櫛山和也氏が参加。活用事例調査報告等において、生成AI技術の動向等に係る情報提供・意見交換等を実施

2 これまでの取組

5 ワーキングチーム第1回会議

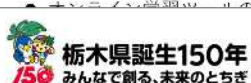
R5.11.16

① 栃木県事例発表

◇ R5.9 本格運用
オンライン学習講座や庁内向け通信により職員のスキル向上を図る

取組① オンライン学習ツール

ChatGPTに関するオンライン学習講座の受講（約300名） ※学習3h程度



栃木県における生成AIの導入について



令和(2023)年11月16日

栃木県 経営管理部 行政改革 ICT推進課

取組② 庁内向け通信

庁内向け通信（働き方改革・DX通信）を用いたChatGPT活用事例等の紹介

- 毎月発行している庁内向け通信（働き方改革・DX通信）を用いて、職員に対して用想定シーン、活用事例等）を紹介。

取組③ プロンプトテンプレート

プロンプトテンプレート8種の作成

テンプレート8種を用意。
宜コピー&ペーストで簡単に利用可能。

プロンプトテンプレート 抜粋

年以上の新入社員の教育等です。
件に沿って、新入社員の日報作成をフォローしてください。

するため、社内業務のBPRを支援する。
添削を50文字以内でシンプルに書く
ら準備できるおつきや学び、発見を含める
使った行動を明確にする。

シナリオ作成（実践、コマンドの利用）

Blogの文章です。

から40歳の女性社員
と共同で社会の実現
の向上

【ChatGPT】初心者向け講座 ビジネスで活用できる程に返答の精度や品質を上げるコツを徹底解説【非エンジニア向け】

ChatGPTの返答の精度・品質を高めることでビジネスに活用し効率的な文書作成・プロット・コンテンツ制作・発点整理などを実現する事ができるようになります。強力なAIツールをうまく使いこなして短時間で、高品質なビジネス現場を実現しましょう。

作成者: 世界の上級生 @shin-aki

● 最終更新日: 2023/9 ● 日本語 ● 日本語(自動)

学習内容

- ✓ ChatGPTの全体像を理解できます
- ✓ ChatGPTのビジネスとしての活用方法を学びます
- ✓ ChatGPTの得意なシーンに合わせたプロンプトを学びます
- ✓ ChatGPTの4つの使い方が理解できます。
- ✓ ChatGPTを使って、企業やアイデアを生成することができるようになります
- ✓ ChatGPTを使って、オリジナルのプロンプトをつくることができるようになります

(出典) Udemyウェブサイト
<https://www.udemy.com/course/chatgpt-business/>

2 これまでの取組

6 ワーキングチームでの情報共有

R6.1.10～

○Microsoft SharePointを活用した情報共有

◇事務局が各都道府県から提供されたガイドライン(資料)等をワーキングチーム専用の「SharePoint(M365)」上にアップロードし、情報共有を開始

The screenshot shows the Microsoft 365 SharePoint interface. At the top, it says 'Microsoft 365'. Below that, there's a navigation bar with '全' and '全国知事会'. There are also buttons for '+ 新規', 'アップロード', 'ダウンロード', and '統合'. The main content area shows a breadcrumb path: 'ドキュメント > 05_調査第三部 > 【共有】生成AI利活用検討WT関連資料置き場'. Below this is a table of documents with columns for '名前', '更新日時', '更新者', and '備考'. Three documents are listed, and the first two are highlighted with a red box.

| 名前 | 更新日時 | 更新者 | 備考 |
|--------------------------------|-------|------|----|
| 35 山口県_1_対話式文章生成AI利活用ガイ... | 3 時間前 | 岡村 恒 | |
| 35 山口県_2_対話式文章生成AI利活用ガイ... | 3 時間前 | 岡村 恒 | |
| 35 山口県 H P 報道発表 (R5.8.22) .pdf | 3 時間前 | 岡村 恒 | |

2 これまでの取組

7 技術動向に関するセミナー

R6. 1. 31

○日本マイクロソフト社による講演

◇AIに対する取組、自治体における生成AIの活用等をテーマとした講演会を開催

“責任あるAI”の原則に基づく当社の取組



生成AIの最新動向や
今後の展望について

データを国内で完結可能

ません

す

画面で不適切な利用の抑止)

(著作権侵害リスクの抑止)

Azure OpenAI

• Microsoft では高性能なエンジンである「GPT-4」だけ提供するサービスも用意しています。

AIの進化と生成AI

| IT 技術の進歩 | 解決できる問題 | 問題解決への人間の努力 |
|-----------------------------|-------------------|--|
| スーパーコンピューター 膨大な計算を1秒よりかけ | ・ チェス ・ 垂れ換え案内 | チェスのトッププロの考えをプログラミングで表現した。 |
| | | 数千万のパラメータを活用して将棋の盤面を評価をトッププロと同等に行うことに成功した。 |
| | | 囲碁を画像の問題として再定義することでディープラーニングを活用できるようにした。 |
| | | ※これからこの IT 技術を使った問題解決への人間の努力が期待されます。 |

った生成 AI システム

機能
即
を
取得
言



Microsoft が提供

2 これまでの取組

8 ワーキングチーム第2回会議

R6.3.19

○議題

- (1) 生成AIを活用した地方公共団体
業務効率化セミナー（福井県）
- (2) 生成AI利活用検討WT活動報告書（骨子案）
- (3) 今後の予定
- (4) 意見交換

福井県による、日本マイクロソフト(株)と連携した業務効率化の取組（生成AI、Teams利活用）について講演・意見交換を実施

2 これまでの取組

8 ワーキングチーム第2回会議

R6.3.19

○福井県セミナー

- ◇行政DX、業務改善の取組紹介
R5生成AI実証→R6.4月から全庁展開

17 汎用型生成AI 課題と今後の展開

13 実証の展開（コミュニティ設置）
情報交換コミュニティの設置

02 福井県DXの特徴

人・予算の多寡によらず、全員が自律的に業務変革を推進

ル（Teams）上に、
できるチャンネルを設置
開を促進

回/30人（37.8回/人）

による利用への抵抗）
少ない・少ない
など

ブラウザのみで利用可能
ない、管理者側で監視可能
庁内周知

福井県の業務効率化の取組み

～全国知事会「生成AI活用検討ワーキングチーム」会議（第2回）～

令和6年3月19日

福井県

意思と積極性
ブライノベーション
よりMS365導入

全員取組みの機運醸成
仕組み作り
業務改善徹底

コピペでAI活用...
ChatGPT、Copilot...
ブラウザのみで利用可能...
管理者側で監視可能...

2 これまでの取組

9 ワーキングチーム第3回会議（書面開催）

R6. 6. 3

○議題

(1) 『生成AI利活用検討ワーキングチーム』活動状況報告書（案）

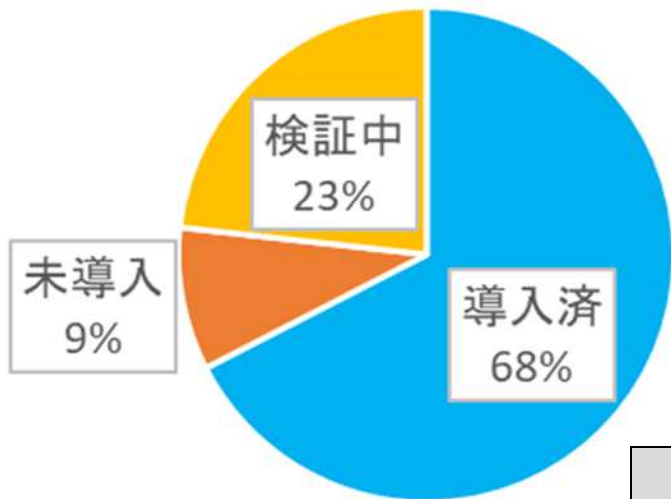


2 これまでの取組（アンケート調査結果） ※アンケート調査は、R6.4に43都道府県対象に実施

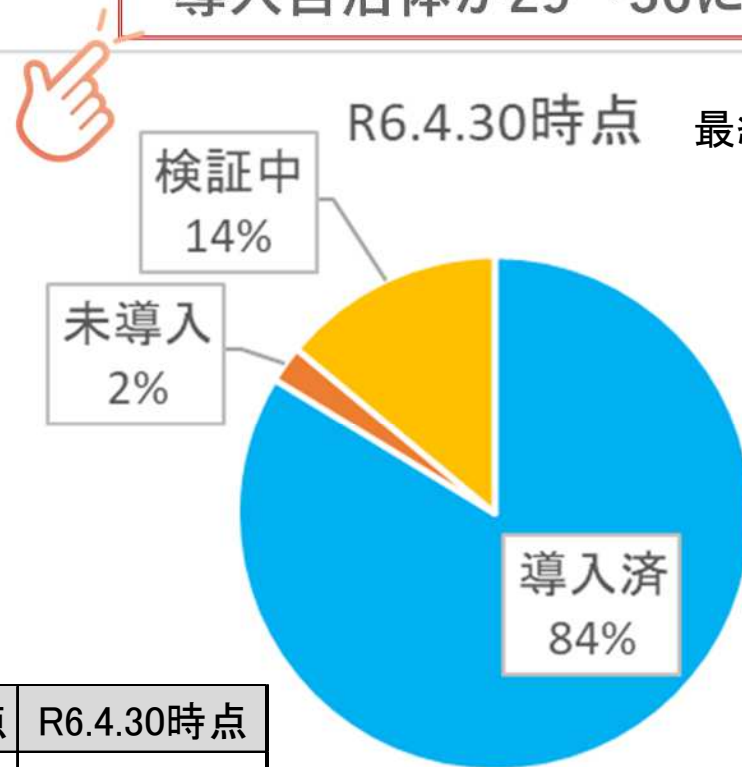
1 生成AIの導入状況

導入自治体が29→36に増加

R5.11.16時点 中間とりまとめ



R6.4.30時点 最終結果



| | R5.11.16時点 | R6.4.30時点 |
|-----|------------|-----------|
| 導入済 | 29 | 36 |
| 未導入 | 4 | 1 |
| 検証中 | 10 | 6 |
| 総計 | 43 | 43 |

※検証中6のうち令和6年度中に4自治体が導入予定

2 これまでの取組（アンケート調査結果）

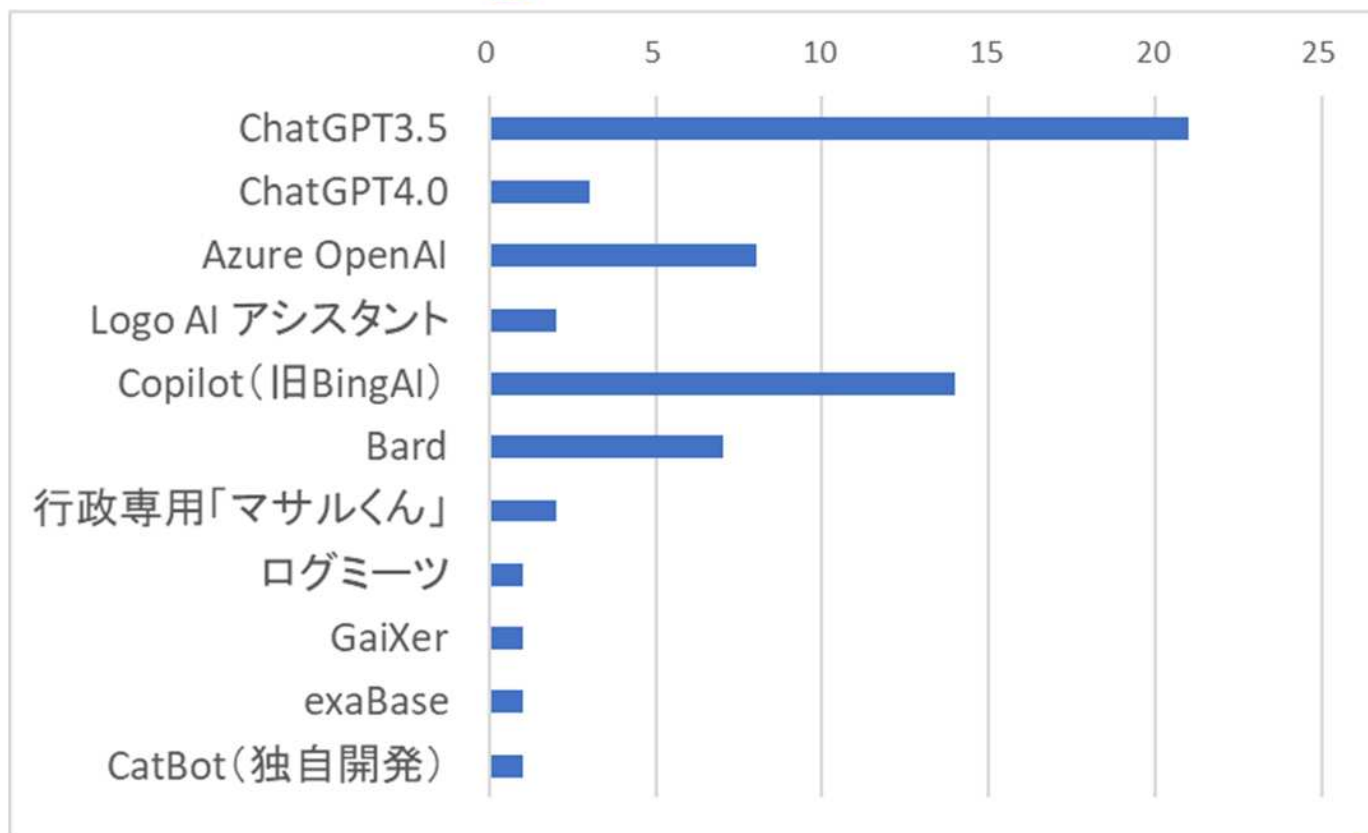
I 生成AIの導入状況

○ 生成AIの導入サービス名（複数回答）



ChatGPT3.5、Copilot（旧BingAI）が多く導入されている

| サービス名 | 回答数 |
|------------------|-----|
| ChatGPT3.5 | 21 |
| ChatGPT4.0 | 3 |
| Azure OpenAI | 8 |
| Logo AI アシスタント | 2 |
| Copilot(旧BingAI) | 14 |
| Bard | 7 |
| 行政専用「マサルくん」 | 2 |
| ログミーツ | 1 |
| GaiXer | 1 |
| exaBase | 1 |
| CatBot(独自開発) | 1 |



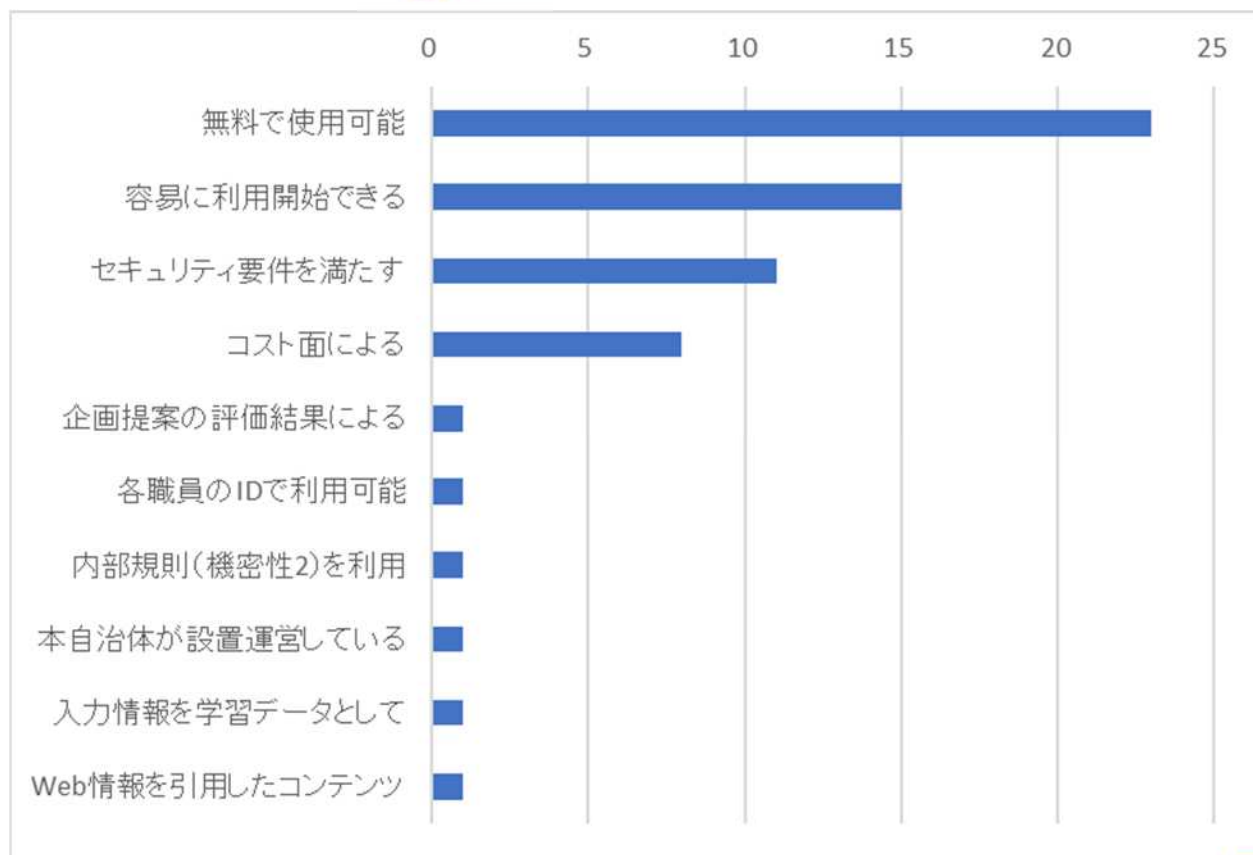
2 これまでの取組（アンケート調査結果）

I 生成AIの導入状況

○ 導入したサービスの選定理由（複数回答）

ChatGPT3.5、BingAIの選定理由は無料、容易に利用が多くを占めている

| 選定理由 | 回答数 |
|--|-----|
| 無料で使用可能 | 23 |
| 容易に利用開始できる | 15 |
| セキュリティ要件を満たす | 11 |
| コスト面による | 8 |
| 企画提案の評価結果による | 1 |
| 各職員のIDで利用可能 | 1 |
| 内部規則(機密性2)を利用できる | 1 |
| 本自治体が設置運営しているクラウドシステムを用いて導入環境を構築 | 1 |
| 入力情報を学習データとして利用しないように設定可能、利用規約及び設定画面によって確認可能 | 1 |
| Web情報を引用したコンテンツを生成、かつ引用元の特定が容易なため | 1 |

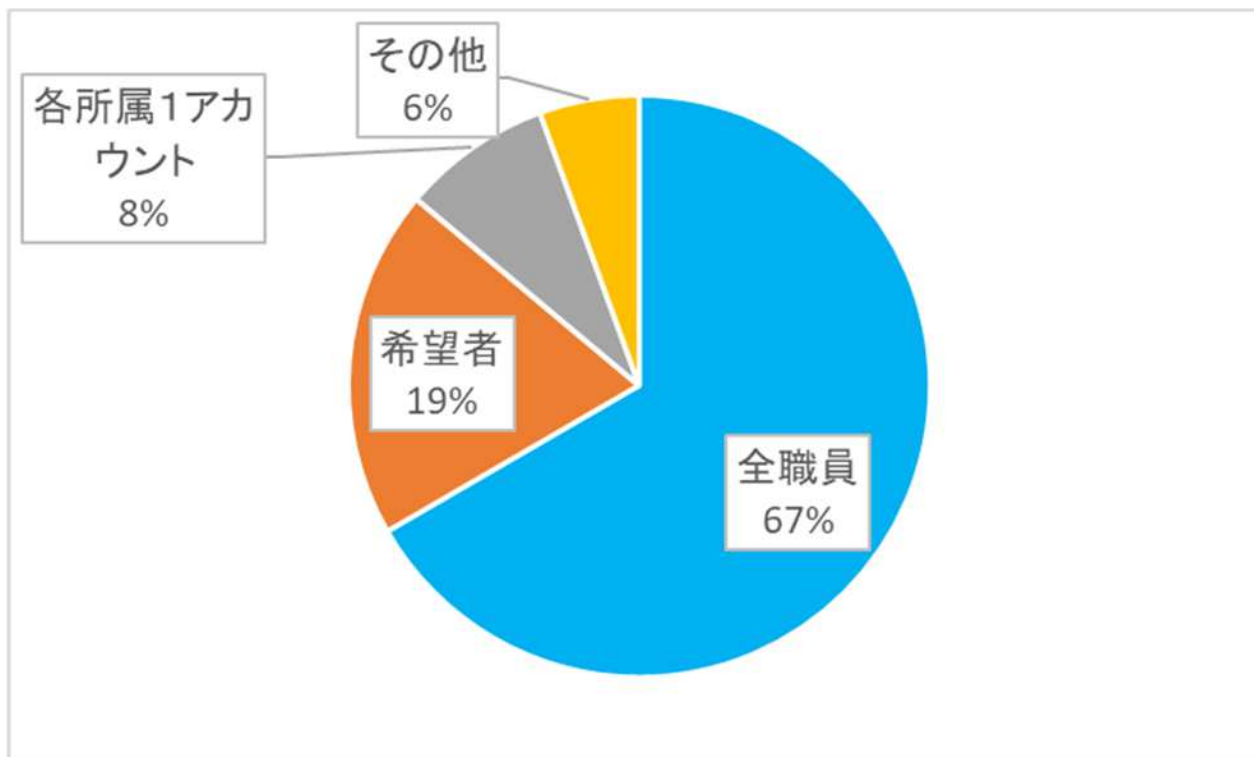


2 これまでの取組（アンケート調査結果）

I 生成AIの導入状況

○ 生成AIの導入済自治体における導入範囲

導入自治体のうち全職員に導入が約7割



| | 回答数 |
|-----------|-----|
| 全職員 | 24 |
| 希望者 | 7 |
| 各所属1アカウント | 3 |
| その他 | 2 |
| 総計 | 36 |

2 これまでの取組（アンケート調査結果）

I 生成AIの導入状況

○ 生成AIの導入にあたっての課題と対処方法

| | | |
|---|----|---|
| 1 | 課題 | 新規利用者への利用方法やガイドラインの周知 |
| | 対処 | チャットツールのグループトークを活用した定期的な周知 |
| 2 | 課題 | ハルシネーション(誤情報)や著作権侵害のリスク、非公開情報の取り扱い |
| | 対処 | 講習を受講してテストに合格した職員のみが使用できるルールとした |
| 3 | 課題 | 利用者の伸び悩み |
| | 対処 | 使い方の事例などの周知を強化している |
| 4 | 課題 | 高額な導入・運用コスト |
| | 対処 | 職員開発による費用逡減 |
| 5 | 課題 | 情報漏洩・著作権侵害への懸念 |
| | 対処 | 入力した情報を保存・学習しない生成AIサービスの選定と、生成AIの利用に係るガイドラインの策定 |
| 6 | 課題 | プロンプトを入力することの難しさや、使いどころが分からない等の理由から、利用者が限定されている |
| | 対処 | ワークショップやe-learningを実施し普及活動を行っている |

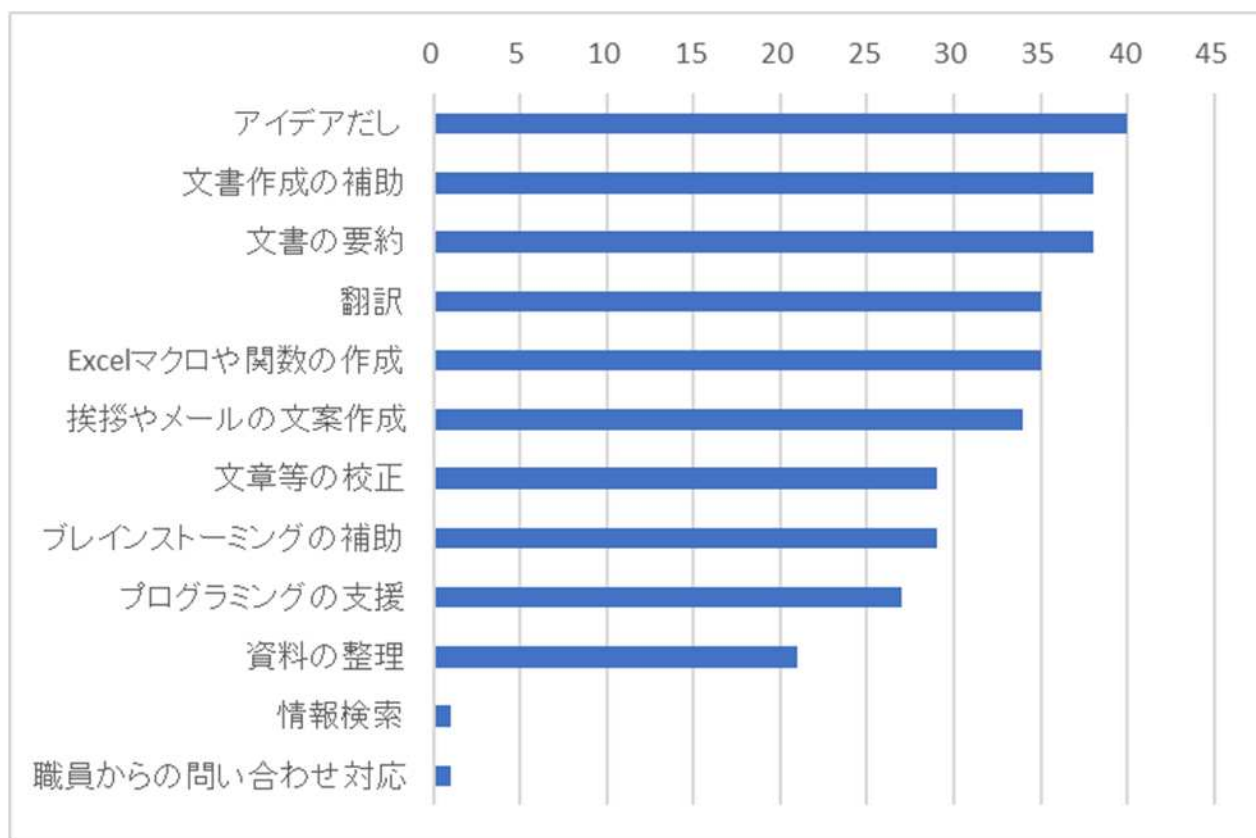
2 これまでの取組（アンケート調査結果）

II 活用事例（複数回答）



アイデアだしや文書作成補助
に多く利用

| 活用事例 | 回答数 |
|----------------|-----|
| アイデアだし | 40 |
| 文書作成の補助 | 38 |
| 文書の要約 | 38 |
| 翻訳 | 35 |
| Excelマクロや関数の作成 | 35 |
| 挨拶やメールの文案作成 | 34 |
| 文章等の校正 | 29 |
| ブレインストーミングの補助 | 29 |
| プログラミングの支援 | 27 |
| 資料の整理 | 21 |
| 情報検索 | 1 |
| 職員からの問い合わせ対応 | 1 |



2 これまでの取組（アンケート調査結果）

II 活用事例

○機密性のある情報を含めて活用している主な事例

| | |
|---|---|
| 1 | データ保護機能を搭載したサービスを利用しているため、非公開情報(個人情報等の機密レベル I の情報は除く)の入力も可としている |
| 2 | セキュアなクラウド環境で、学習には使われない設定ではあるものの、機密性のある情報の入力は禁止している |

○他のシステムやツールとAPI連携等により組み合わせて活用している主な事例

| | |
|---|--|
| 1 | Microsoft Azure OpenAI Serviceを活用し、庁内チャットからChatGPTを利用(令和5年度実証) |
| 2 | Bing search APIを活用し、モデルが学習していない最新情報を検索の上、回答に盛り込む機能を利用している |
| 3 | TeamsをUIとする生成AIのシステムの構築を検討中 |
| 4 | 議事録作成支援サービスと組み合わせ、会議の要約で利用 |
| 5 | 庁内の事務手続等のマニュアルやQA集などを蓄積したシステム(機能)と生成AIサービスを連携させ、職員からのチャットによる質問に答えるチャットボットシステムについて実証中 |

2 これまでの取組（アンケート調査結果）

II 活用事例

○効果的だったプロンプト（指示）の主な事例

| | |
|---|--|
| 1 | 以下の内容を要約して箇条書きで3点にまとめてください。1項目当たりの文字数は140文字程度にしてください。 ### 内容 |
| 2 | 「あなたは行政のプロフェッショナルです」などの役割を明示すると回答の精度が向上した。 |
| 3 | あなたは、プログラマーです。 【プログラミング言語】で書かれた以下のコードをレビューし、改善点を提示してください。また、処理をより高速化する方法があれば併せて提示してください。 # コード【ソースコードを入力】 |
| 4 | これから何回かに分けて文章を入力するので、私が<end>と指示した場合にのみ統合・要約を始めてください。 私が<end>と指示するまで、あなたは<ok>とだけ回答し、統合・要約を待ってください。 (※以下のプロンプトを分割して送信、最後の入力文には<end>をつける) # 入力文1 （膨らませたい文章を入力） # 入力文2に続く |
| 5 | ・繰り返し質問する ・具体的な役割(立場や背景、質問の目的)を与える ・質問の条件を箇条書きにする ・出力方法を指定する |

2 これまでの取組（アンケート調査結果）

II 活用事例

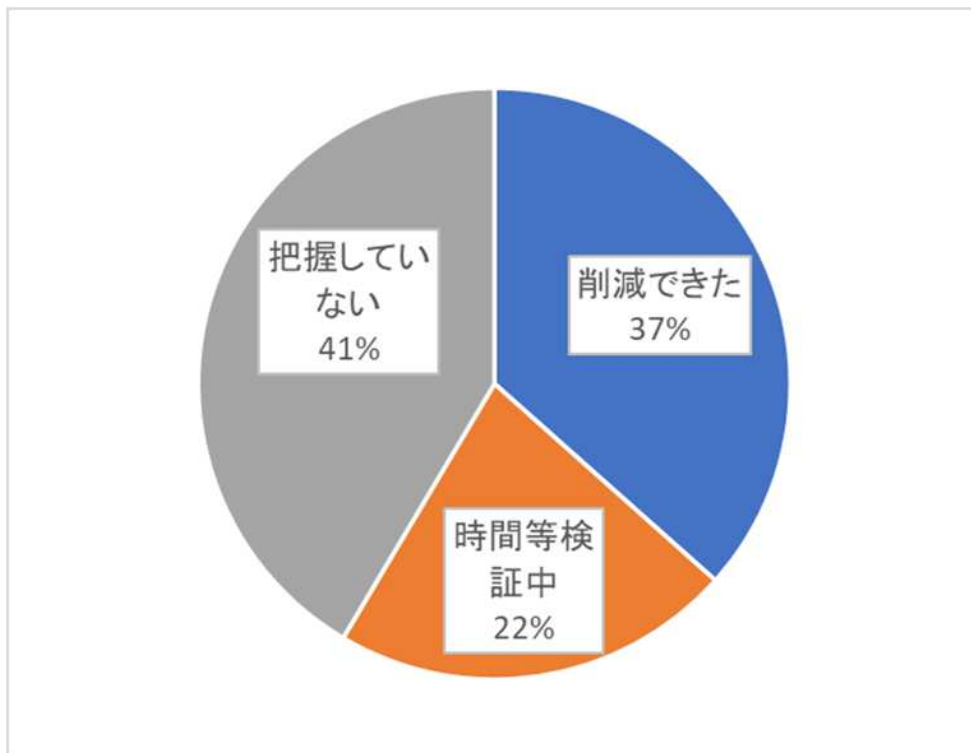
○期待した効果が得られなかった主な事例

| | |
|---|---|
| 1 | 情報を検索するようなケースの場合、情報の新しさや正しさなどに課題があり利用に向かない |
| 2 | 現行のプランを読み込ませて次のプランのアイデア出しをしようとしたが良い回答が得られなかった |
| 3 | アップロードした書類から回答を作成するサービスについて検証を行ったが、書類をそのままアップロードするだけでは、回答の精度が非常に悪く、期待した成果が得られなかった |
| 4 | 法令等に基づく判断を伴う質問を行った場合に、誤った回答や曖昧な回答が返ってくる場合がある |
| 5 | <ul style="list-style-type: none">・固有物(人・地名等)の特徴について尋ねる・最新の情報やトレンドについて尋ねる・単語だけで一回のみの抽象的な質問をする・感想を尋ねる |

2 これまでの取組（アンケート調査結果）

II 活用事例

○業務時間やコスト削減効果



| | 回答数 |
|---------|-----|
| 削減できた | 15 |
| 時間等検証中 | 9 |
| 把握していない | 17 |
| 総計 | 41 |

○削減例

| | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 庁内利用者アンケートから、1日平均10分程度は削減できたという声が多かった |
| 2 | 一人当たり月平均1.3時間相当の削減 |
| 3 | 挨拶文作成では、約1時間→約30分 などの例あり |
| 4 | アンケート結果として、職員平均 53.7時間／年程度の削減効果を見込む |

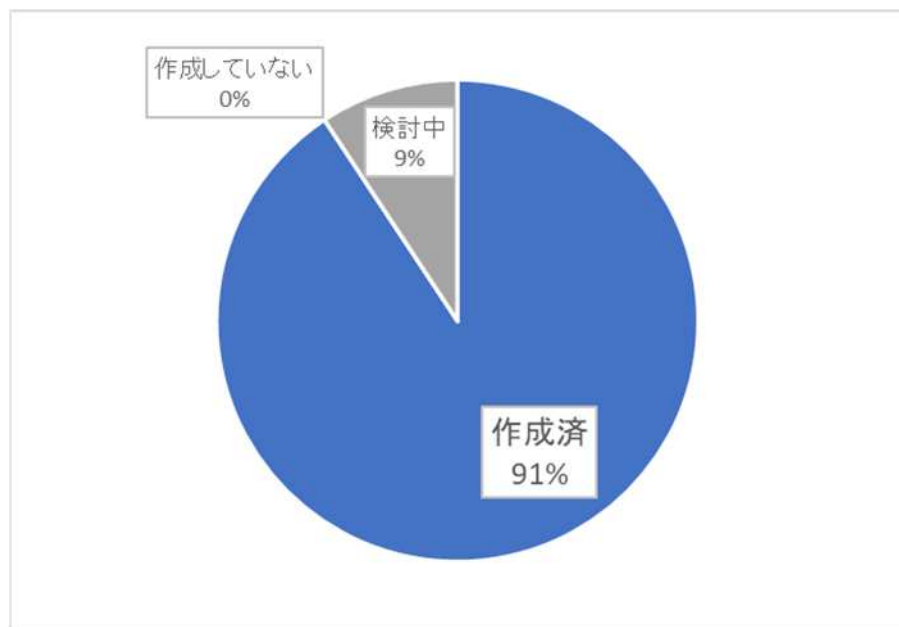
2 これまでの取組（アンケート調査結果）

III ガイドライン等の作成



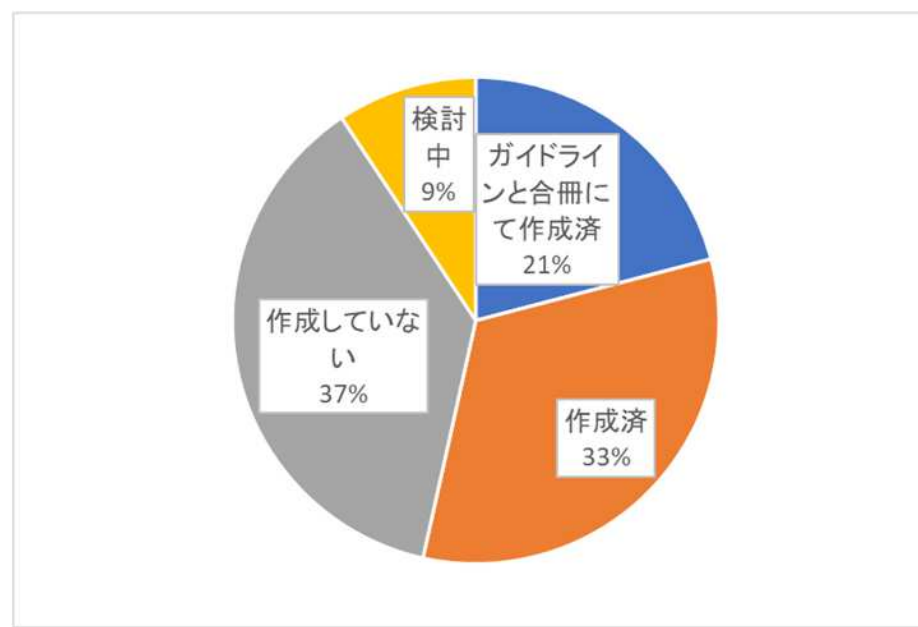
ガイドラインはほとんどの自治体で作成済

○ガイドラインの作成状況



| | 回答数 |
|---------|-----|
| 作成済 | 39 |
| 作成していない | 0 |
| 検討中 | 4 |
| 総計 | 43 |

○活用事例集の作成状況



| | 回答数 |
|----------------|-----|
| ガイドラインと合冊にて作成済 | 9 |
| 作成済 | 14 |
| 作成していない | 16 |
| 検討中 | 4 |
| 総計 | 43 |

2 これまでの取組（アンケート調査結果）

IV 生成AI活用における現状の課題、今後の展望

○現状課題（代表的な回答を抜粋）

| | |
|-----|--|
| 活用 | 職員の利用促進、リテラシー向上のための研修手法 |
| | 効果的なプロンプト作成に向けた職員のスキル向上 |
| | 生成AIを扱える職員とそうでない職員と業務効率に格差が広がる懸念 |
| | 活用事例が文書作成やアイデア出しなど、既存の業務の補助的なものにとどまっており、業務や行政施策の改革までに至っておらず、生成AIが持つ可能性を生かし切れていない |
| 正確性 | 生成されるデータなどの正確性、ハルシネーションや著作権、知的財産権侵害などのリスク |
| | 生成AIの出力結果の根拠や裏付けに時間を要する場合がある |
| | 自治体や行政に特化したモデルではないため、業務に関する質問に対して、精度の高い回答が得られない |
| 機密性 | AIに学習されたくない情報等の入力を防ぐ環境整備等、安全性の担保が必要 |
| | 入力したデータがAIに学習され、他者への回答に利用されるといった情報漏えいの危険性 |
| 管理 | 有償サービスの導入効果を見通すのが困難 |
| | 利用が拡大するとトークン数が増え、コストに影響する可能性 |
| | プロンプトの入力内容までは管理者で制御することはできないため、不適切な入力を未然に防止する方策 |
| | 適正なアカウント数の管理や検索高度化機能の精度向上 |

2 これまでの取組（アンケート調査結果）

IV 生成AI活用における現状の課題、今後の展望

○今後の展望（代表的な回答を抜粋）

| | |
|------|---|
| 期待 | 文章要約などの作業を生成AIに行わせることにより職員は人間にしかできない仕事に注力、これによって県民サービスの質を向上させることができる |
| | 生成AIは、個々の職員の能力を大きく強化してくれる存在であり、今後、職員は、これを活用して業務の効率化し、それによって生み出された時間で、本来人間でないとできない領域の仕事に注力できるようになるものと期待 |
| 活用促進 | 働き方改革(業務の効率化)の視点で、職員が積極的に利活用可能な環境の整備が必要 |
| | 継続的に職員の利用満足度や業務における効果等について検証し、利用環境の改善やさらなる活用につなげる 生成AIシステムの活用には、管理監督職も含めた職員の意識啓発が重要であり、研修等を通じて生成AIの理解促進に努めることが必要 |
| 機能向上 | 有償サービスの導入や、生成AIを活用した職員向けチャットボットの構築 |
| | プラグインサービスや、文章生成以外の生成AIなど、生成AIのさらなる活用可能性について検討 |
| | インプット、アウトプットのマルチモーダル化 |
| | 日本語特化型、オンプレミス(ダウンサイジング)など、よりシンプルで使いやすいモデルの選定 |
| | 行政独自の規程等を読み込ませることが可能な(RAG)ツールの導入 本自治体独自のデータ(行政計画や各種要領等)を生成AIに学習させ、よりの確な回答を生成する機能やロギングができる機能を搭載した生成AIを構築 |

2 これまでの取組（アンケート調査結果）

V 国や事業者への要望・提言

○国への要望・提言（代表的な回答を抜粋）

| | |
|---|--|
| 1 | 行政分野における安全な生成AIの利用ルールの検討、自治体における生成AIの活用事例集作成、生成AIに関する財政的・技術的支援 |
| 2 | 統一的な生成AI利用のガイドラインを制定いただきたい |
| 3 | 国や地方公共団体が共同利用する行政用生成AIの提供 |
| 4 | 各自治体が安全に利用できる行政専門の生成AIサービスを作成してほしい |
| 5 | 地方自治体において生成AIを利用する環境についても、標準化・共通化していただきたい |
| 6 | 知的財産権等に関する議論を踏まえ、共通の指針を速やかに示すなど、地方自治体が行政の分野で生成AIの活用を促進できる環境の整備 |
| 7 | AIに適した形式に変換した法令等のデータの作成・共有(RAG導入時に必要) |
| 8 | 国内閉域のマルチモーダルLLMサービスの誘致 |
| 9 | 国民のリテラシーを向上させる国レベルの施策を検討していただきたい |

2 これまでの取組（アンケート調査結果）

V 国や事業者への要望・提言

○サービス事業者への要望・提言（代表的な回答を抜粋）

| | |
|---|---|
| 1 | 効果的な生成AIの利用に関する研修の実施やコストダウン |
| 2 | 行政に特化したファインチューニングを行ったサービス等の提供 |
| 3 | 「著作権の侵害となっていないか」の判定ができるサービスの提供 |
| 4 | マルチモーダル対応サービスの提供 |
| 5 | 法令等のデータをAIに適した形式に変換することができる技術の開発(RAG導入時に必要) |
| 6 | 行政分野における生成AIの具体的な利活用の促進サポート |
| 7 | 日本語の情報(最新の情報も含めて)を多く学習したLLMを開発し自治体向けに安全な環境で提供 |
| 8 | 利用者・管理者両側面でUXの向上に資する機能の開発・提供 |
| 9 | 庁内データを容易・安全・効果的に利用できるシステム(オンプレ環境など)の提案 |

2 これまでの取組（アンケート調査結果）

VI 本ワーキングチームへの要望

○今後の活動に対する要望（代表的な回答を抜粋）

| | |
|---|--|
| 1 | 各自治体や国等の利用状況などに関する情報提供、最新の生成AIサービスに関する情報提供 |
| 2 | 他自治体の先進事例や優良事例などについて定期的に共有される仕組みの構築 |
| 3 | 自治体における効果的な活用については、未だ模索中の面があることから、活用事例に係る継続的な情報共有 |
| 4 | 自治体における生成AIを活用した成功事例や課題・リスクの共有 |
| 5 | 官民の垣根を超えた生成AIの活用事例や技術トレンドの紹介 |
| 6 | 色々な生成AIのサービスが出てきているため、一括してサービスを体験できるようなプラットフォームがあるとより具体的な検討につながる |

3 取組による成果

1 都道府県間の情報共有の促進

I 先進自治体の事例共有等

《主な事例》

- ◇栃木県・・・生成AIの利活用技術に特化した研修等の実施
(R5.9月から本格運用、職員のスキル向上の取組)
- ◇香川県・・・職員による生成AIシステムの開発 (内製)
(R5.9月から内製システムの運用開始)
- ◇福井県・・・生成AI等デジタル技術を積極的に活用した業務効率化への着手
(行政DX、業務改善の取組、生成AIはR6.4月から全庁導入) 等

II 自治体間 (ワーキングチーム) の情報共有の仕組み構築

- Microsoft SharePointを活用し、ワーキングチーム内の情報共有を実施
- 各自治体作成の「生成AI利活用ガイドライン」等の資料共有を開始
⇒ 39自治体でガイドライン作成済 23自治体で活用事例集作成済

3 取組による成果

III アンケート調査実施と導入・利活用情報の共有

- R6.4.30時点で、36都道府県が生成AI導入済（さらに令和6年度中に4都道府県が導入予定）
- 各自治体の導入システムの内容や経費、利活用の現状・課題等を共有

2 ITベンダー等からの技術情報等の収集

I 北海道ミライづくりフォーラム

- 北海道大学大学院情報科学研究院 川村秀憲教授 講演
「人工知能のミライ ChatGPTを超えて」

II マイクロソフトの取組

- Azure Open AI / Microsoft365 Copilot活用例
- 自治体事例紹介

4 今後の普及・展開に向けた課題

※p34～36は日本マイクロソフト(株)の協力により作成

各自治体や有識者等との情報・意見交換から、生成AIの今後の動向、課題等を整理。今後の普及・展開の参考とする。

1 AI活用シーンの拡大への対応

- 民間では生成AIの活用シーンが拡大中。公共領域においても今後、住民サービス・現場業務への活用シーンの拡大が予想される。

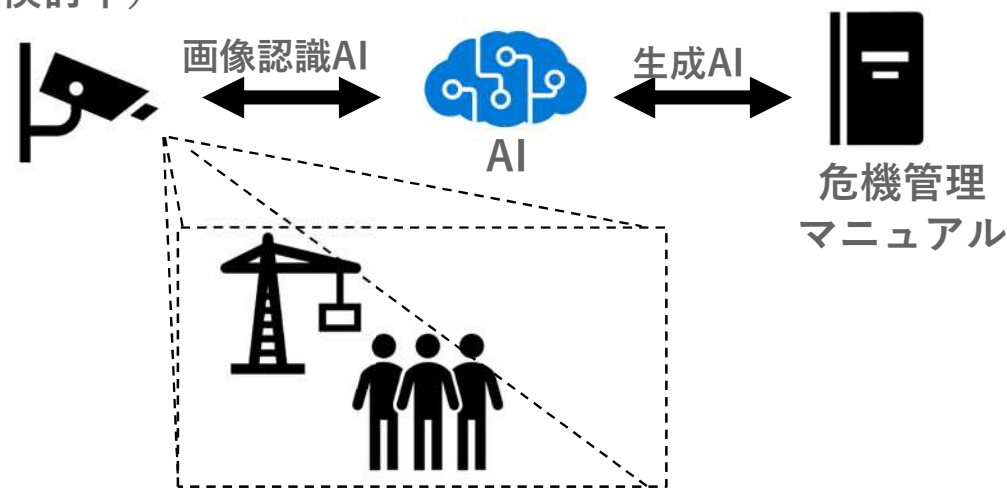
① 鉄道：駅設備 機械故障

過去の膨大な故障に関するデータを基に生成AIで故障対応方法を提示



② 製造業：カメラ映像から点検業務

危険回避マニュアルを基にカメラの映像の状態が問題ないか確認しヒヤリハットを未然に検知し、音声で警告（導入検討中）



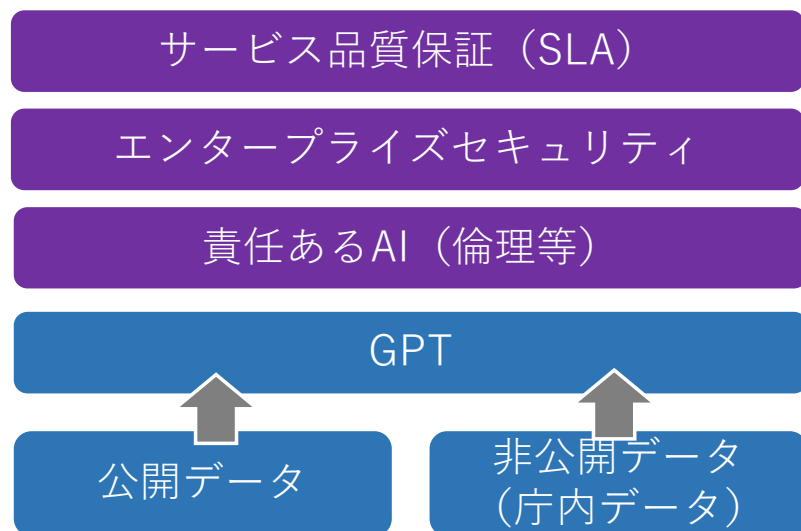
4 今後の普及・展開に向けた課題

2 活用シーン拡大とセキュリティ対策

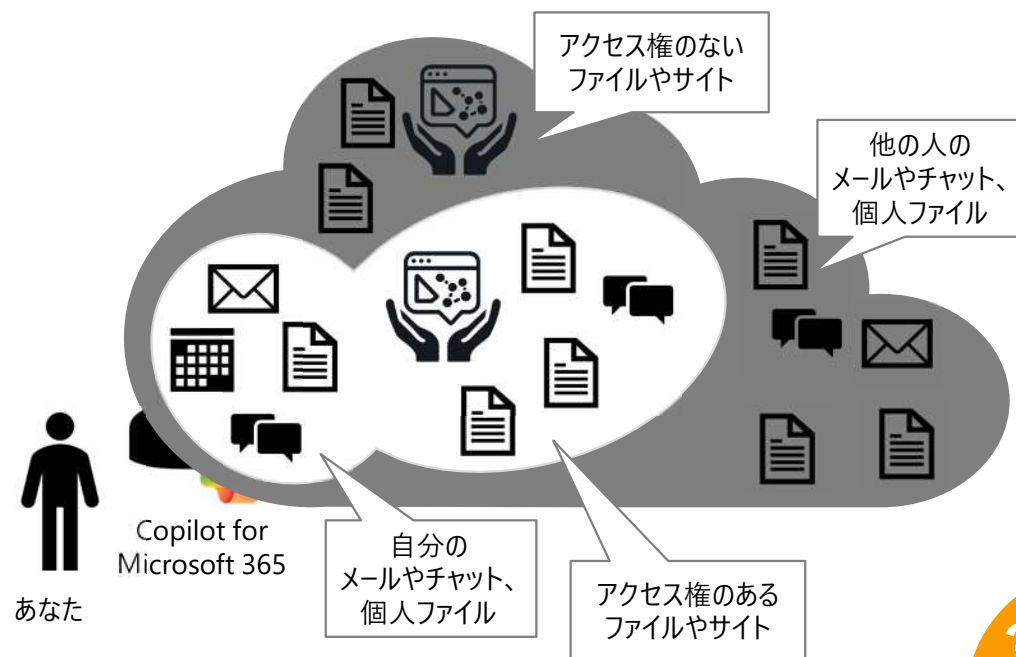
- 活用シーンの拡大に伴ってセキュリティ等のケアが重要になる。

公共領域に必要なクラウド基盤

倫理やセキュリティ、SLAに考慮しつつ、
公開データ・非公開データ両方を活用



生成AIの基データへのアクセス件の管理



4 今後の普及・展開に向けた課題

3 DX促進のための意識開発

AIを含むDXは、単なる「現行システムの更改」、「現行機能の置き換え」ではなく、「働き方の見直し」など今後の目指す姿を踏まえた検討・取組である

経済産業省「DXレポート2（2020年12月28日）」

<https://www.meti.go.jp/press/2020/12/20201228004/20201228004.html>

DXレポート1～2025年の崖～（2018年9月）

誤：情報システムを刷新する。



ITシステム更新の問題から企業・組織変革の問題へ

正：素早く変化し続ける能力を身に付ける。

5 おわりに

本ワーキングチームでは、これまでの会議やセミナーを通じて、積極的な取組をされている栃木県、香川県、福井県等の自治体における先進事例や、サービス事業者からアドバイスや先進技術の情報提供・助言等を受け、生成AIに関する情報の収集と共有に努めてきました。

そうした中、令和6年4月末現在で、36都道府県※で生成AIの導入が進んでおり、令和6年度中にはさらに4都道府県※で導入予定であり、多くの自治体でガイドラインや活用事例集を作成され、生成AIの利活用に向けた環境整備が進んでいるところです。（※ R6.4時点の本ワーキングチーム構成都道府県43都道府県の内数）

今後、公共分野においても生成AIの活用拡大が見込まれることから、職員の意識改革を図るとともに、業務効率化や住民サービスの向上に繋げていくため、各都道府県での取組の共有等を継続し、安全・安心な利活用の促進に繋げていきます。

また、本ワーキングチームにおけるセミナーやアンケート調査等を踏まえ、生成AIの利活用については、正確性や機密性等の面で様々なリスクも指摘されていることから、国に対し、「AI事業者ガイドライン」の継続的な見直しや、生成AIの利活用の促進に向けた共通の指針作成、国と地方全体の行政事務の効率化や生成AIを安全・安心に活用できる環境整備等の対応等について引き続き求めていきたいと考えています。

最後になりましたが、ワーキングチームの取組に際し、オブザーバーとして多大な御協力を頂きました西日本電信電話株式会社様及び日本マイクロソフト株式会社様に感謝申し上げます。

全国知事会デジタル社会推進本部
生成AI利活用検討ワーキングチーム